

早稲沢川（下降）

一九二九年七月二十二日

◆天気（晴）

尾根上で木に登り現在地を確認したあとと下降にかか
る。キノコ栽培の跡と思われる朽ち果てたブナの大木が
いたる所にあり足をとられた。また山ブドウのつるに足
をとられ、アザミやイラクサになやまされながら下る。

左俣との合流点からは山菜道があったので、それを利用
して林道へ出る。

（記：）

〔タイム〕

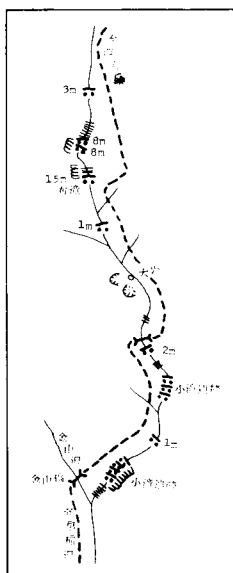
下降点一一〇〇—林道一三二二五

吾妻川

一九二〇年七月二十日

◆天気（晴時々曇）

吾妻の沢の廻行は割合と日帰りか、夜行日帰りが可能
であり、容易にとりつけるものが多い。そんな中に西吾



吾妻川
（作図：）

妻山周辺を源とする大小多くの沢があり、吾妻川もその
一つである。

七・〇〇福島発。早稲沢部落を過ぎ、すぐ右の林道へ
入る。一・五キロ程進むと金山橋がある。ここが出発点だ。

九・〇〇金山沢に入るパーティと別れて廻行開始。水
量は割合に多く、前方に滝があることを思わせる沢の状
態であった。最初から小さなナメと小滝が連続する。期
待感を高めていたら徐々に平凡になつてきた。九・五〇
登山道の木橋に出合い、そこで休憩する。付近にはフキ
やワサビ、ミズナが豊富にあった。

沢筋が急に細くなつてくる。一時間位沢に覆いかぶさ
るヤマブドウなどをこえながらゆくと、少し広いゴード
となる。「今日の沢はダメダ」とあきらめぎみに進んでゆ
くとF1一五以布滝があらわれた。昼食をとつた後、登

大沢右俣

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

車を降りて三〇分程林道を終点まで歩く。ここが二俣となっていて、菅野・渡辺パーティと別れ、水のある本流に入る。当初から沢は源流の様相を示している。三〇分程で二俣。下降の関係から水量の少ない右沢に入る。そこから少し遡ると湧水となる。ここからヤブこぎ一時間程で尾根に出る。

(記・一)

〔タイム〕

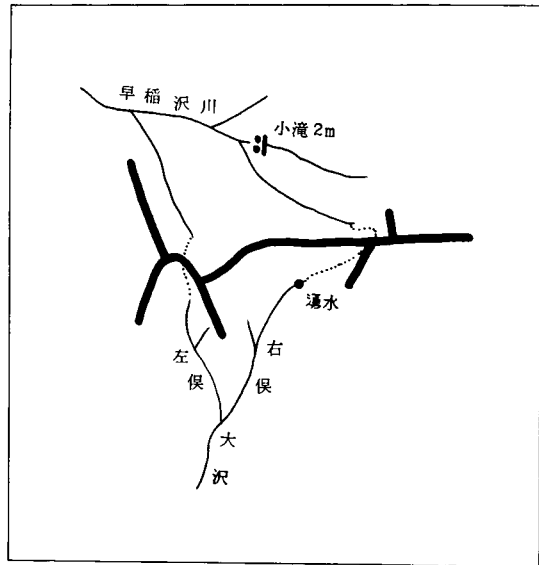
出合七・三〇―尾根九・二〇

大沢左俣

一九七九年七月二十二日

◆天気(晴)

最初からヤブこぎの連続。滝もなく、伐採された木々がたくさんあり、沢というよりはその上を歩いたという



大沢、早稲沢川 (作図: 記)

感じであった。地図にはつきりした水線がえがかれていたが、沢幅・水量ともたいしたことはなかった。

(記・二)

〔タイム〕

出合七・三〇―沢終了八・二〇